

実践者・開拓者 であれ！

信州の地域福祉のあゆみ



長野県社会福祉協議会
信州の地域福祉研究会

巻頭言
信州の実践者・開拓者の
想いを紡ぐ
市川一宏氏
(ルーテル学院大学名誉教授)

解説
地域福祉実践の現在・過去・未来
～『信州の地域福祉のあゆみ』を読んで～
野口定久氏
(佐久大学 教授 / 日本福祉大学 名誉教授)

- 令和元年、市川一宏先生の呼びかけで、信州の地域福祉実践を記録化する研究会がスタートしました。
- 長野県社協では、この研究会と共同で信州の地域福祉の歴史を学び記録する講座を開催し、長野大会にあわせて、本書を刊行いたしました。

地域福祉の開拓者たち



草創期の社協職員が軌跡とスピリットを語る

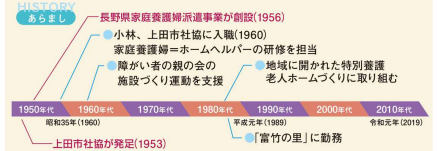
～上田市社協元職員からソーシャルワーク実践のバトンを引き継ぐ～



第1回長野県家庭養護派遣事業大会（1976年8月、右から小林（司会）、県福祉課長、上田市長、社協委員長）

関連DATA

上田市
1960年（国勢調査）
*人口 138,182人
2023年4月現在
*人口 151,315人
*高齢化率 31.6%



1960年代の上田市社協について

1962年、「社協基本要綱」が定められ、社協が住民主体で地域組織化を推進する機関として明記された。「住民主体原則」当時、「住民主体」に影響を与えた社協の一つとして上田市社協があげられる。(※1) 1965年の黒田保一他「コミュニティー・オーガニゼーション」では、1962年の上田市社協の事業計画や事業内容から、「まことに多角的であって、同時に多種の活動が展開されることが推察されるが、それらを巧みに演じて行くことが、コミュニティー・オーガニゼーション・ワーカーの働きである」と論じられている。(※2)

草創期の上田市社協で

小林和子（長野市）は、上田市社協に1960（昭和35）年に入職し1980年まで勤務した。

上田市社協の50年史によれば、上田市社協は、戦後間もない1953年に任意団体として発足。上田市社協は、関沢勲三会長のもと、各支部から役員を選出し、その役員らが地域の実態調査を行い、地域のニーズの掘り起こしをする組織的な活動をしていった。

母子家庭や高齢者の一人暮らし世帯などを支援する家庭養護派遣事業を開始し1956年、日本のホームヘルプ事業の発祥とされる「長野県家庭養護派遣事業」の創設につなげたほか、児童の相談事業や健全育成活動、肢体不自由児等障害児・者のための施設づくりなどを行っていた。会長の関沢は、その功績が認められ、1970年に厚生大臣表彰を受賞している。

小林が入職した時期は、長野県家庭養護派遣事業が始まった約3年後であり、草創期の社協の開拓精神を知る数少ない元職員と言える。

高校生としてのボランティア活動を契機として社協に入職

小林は、旧東部町（現東御市）の和（かのう）で1939（昭和14）年に生まれた。幼少期にポリオに罹患したことにより、左足に麻痺が残り、中学生3年生ときに東京の「整肢療護園」で6カ月間、入院療養をした。

1956年、高校に入学した小林は、整肢療護園の山本実医学博士を招

語り手



小林 和子
Kazuko Kobayashi

聞き取り：佐藤もも子（東御市社会福祉協議会職員）
年表作成：笠原邦正（上田市社会福祉協議会職員）
*本稿は小林の語りと史実を照合して文章化した。
*本文中の圈み内の文章は、聞き手である現代の社協職員が上田市社協と小林らの実践から「ソーシャルワークの要点」として受け取った事柄を記した。

特別頒布価格 1,500円

郵送費(レターパック実費 3冊まで370円)



FAX026-227-0137

信州の地域福祉のあゆみ 購入申込書

| | | |
|------|---|------------|
| 注文者名 | 冊 | 送付先 (〒 -) |
| | | 住所 |
| | | 宛名 |
| | | 電話番号 () |

御請求書を同封いたします。

長野県社協 まちづくりボランティアセンター 電話026-226-1882

語り手一覧

| | 語り手 | 内容 | 掲載ページ |
|----------------------------------|--------------------------------|---|-------|
| 第1部 地域福祉の開拓者たち | | | |
| 01 | 小林 和子 元上田市社会福祉協議会職員 | 草創期の社協職員が軌跡とスピリットを語る ～上田市社協元職員からソーシャルワーク実践のバトンを引き継ぐ～ | 10 |
| 02 | 小池 正志 元長野県社会福祉協議会職員 | 信州のボランティア活動振興と地域福祉推進 ～長野県社協の取り組みの歩みから～ | 16 |
| 03 | 小林 博明 元長野市社会福祉協議会職員 | 「学びと自治」の拠点づくりを目指して ～長野市ボランティアセンターの歩みから～ | 22 |
| 04 | 沖 弘宣 元飯綱町社会福祉協議会職員 | おらほの町の福祉を追い求めて ～飯綱町社協での実践から～ | 28 |
| 05 | 土屋 ゆかり 長野市社会福祉協議会職員 | 私たちが目指したもの 過去・現在・未来 ～狭間の課題に寄り添って～ | 34 |
| 第2部 「住民主体」の推進者たち | | | |
| 06 | 山岸 勝子 元四賀村社会福祉協議会職員 | 「四賀地区」の地域福祉 ～松本市四賀地区社協の実践から～ | 42 |
| 07 | 木下 巨一 元飯田市職員 | 住民には力がある ～社会教育の伝統と地域福祉のつなぎ役として～ | 46 |
| 08 | 小池 玲子 長野県社会教育委員連絡協議会会長 | 安心とやさしさの地域づくりを目指して ～社会教育と福祉教育を原点として～ | 50 |
| 09 | 降旗 都子 松本市第三地区まちづくり協議会副会長 | 「イオン」を変えた！公民館活動からのまちづくり ～松本市第三地区の実践から～ | 54 |
| 10 | 山田 翔太 御代田町社会福祉協議会職員 | 住民同士の支え合い活動の足跡をたどる ～御代田町でのサロン活動の実践から～ | 58 |
| 第3部 個別支援と地域支援のつなぎ手たち | | | |
| 11 | 杉村 信子 元大桑村社会福祉協議会職員 | 身近な住民同士が協働し合える地域へ ～大桑村での実践から～ | 64 |
| 12 | 桜井 幸雄 諏訪市社会福祉協議会職員 | 社協らしいサービスを目指して ～「ガイドライン方式」にかけた思い～ | 68 |
| 13 | 井上 賢一郎 池田町社会福祉協議会職員 | 「サポートてるてる」で「介護の力」と「住民の力」を紡ぐ ～池田町社協の実践から～ | 72 |
| 14 | 片桐 美登 元駒ヶ根市社会福祉協議会職員 | サービスありきから地域づくりへ ～駒ヶ根市社協の実践から～ | 76 |
| 第4部 「地域で暮らす」取り組みを進めた実践者たち | | | |
| 15 | 宮島 渡 全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会理事長 | 地域包括ケア「信州真田モデル」に源流をみる ～「アザレアンさなだ」の実践から～ | 82 |
| 16 | 小池 正志 元長野県社会福祉士会事務局長 | 信州の地域福祉権利擁護推進の歩み ～法的支援と福祉支援をつないで～ | 86 |
| 17 | 丸山 哲 元長野県自立支援協議会会長 | 地域で暮らして行こう ～障がい者の地域生活移行の歩み～ | 90 |
| 18 | 川瀬 勝敏 長野県児童福祉施設連盟会長 | 「施設」が町にやってきた！ ～子どもたちを多様な協働で支える地域を目指して～ | 94 |
| 19 | 佐藤 もも子 東御市社会福祉協議会職員 | 人と地域の力を信じる協働のソーシャルワーク ～まいさぼ東御のニーズから発する実践～ | 98 |